■畑中武夫　　天文学者。日本の電波天文学を開拓，若くして日本の天文学界をリードし，国際的に活躍したが，早世した。
はたなかたけお
第一次大戦始1914＝　　和歌山県田辺市に生まれたが，

幼少にして畑中家を継いで，新宮市に引越し，同市を出身地とした。

原敬首相暗殺1921＝　7歳：

関東大震災・1923＝　**9歳：**

円本時代始・1926＝12歳：新宮中学校入学の頃，**_科学に目覚めて天文学を志し，**

満州事変・・1931＝17歳：卒業して，第一高等学校に入学。
五一五事件・1932**＝18歳：**
国際連盟脱退1933＝19歳：卒業して，**_東京帝国大学理学部天文学科に進む。**

日中戦争始・1937＝23歳：**_卒業し，**
総動員+健保　1938＝24歳：**_東京帝国大学助手兼東京天文台技手となって，主に理論天体物理学の研究を始め，**

日米開戦・・1941**＝27歳：**

恩師であり日本を代表する天文学者萩原雄祐下で，惑星状星雲の放射機構を研究，

敗戦・・・・1945＝31歳：東京帝大理学部講師。***論文「惑星状星雲に於ける電離ヘリウム，二重電離酸素及び二重電離窒素原子間の光学的交互作用理論(英文)」で，理学博士号となるが，イギリスのマーチン・ライルらの論文によって日本に電波天文学が紹介されると，率先して研究テーマをこれに変えて，太陽から出ている電波の観測を始め，**
新憲法施行・1947＝33歳：助教授，
極東裁判決・1948＝34歳：天文學叢書2「日食・コロナとは何か」，
三大事件・・1949＝35歳：***東京天文台で，偏波計による太陽電波観測を初めて実施して成功，**
朝鮮戦争始・1950**＝36歳：**
独立回復・・1951＝37歳：
ﾒｰﾃﾞｰ事件・　1952＝38歳：「宇宙・太陽」「現代自然科學講座5・星と星の間」，
TV放送始・・1953＝39歳：**_若くして教授になり，**
当時の研究者としては珍しくさまざまな雑誌で記事を執筆したりテレビ出演や座談会に出席し，
国連加盟・・1956＝42歳：**_岩波新書「宇宙と星」は，わかりやすい言葉で書かれ，一般の人たちが宇宙へ関心を抱く契機にもなった。**
なべ底不況・1957＝43歳：***東京大学附属東京天文台天体電波部長に就任し，野辺山太陽電波観測所の設営に当たる。**
美智子妃・・1959**＝45歳：**
安保闘争・・1960＝46歳：
_日本の天文学界をリードする存在となり，国際的に活躍したが，
全国総合計画1962＝48歳：日本学術会議会員当選
TV宇宙中継始1963＝49歳：***脳出血のため，急死した。正四位，勲三等瑞宝章が贈られた。**
没後，「ライフ　ネーチュア　ライブラリー」，岩波新書「宇宙空間への道」，新天文学講座10「電波天文学・電波天文学の発達」，同15「天体の物理観測・天体スペクトル理論入門」が続いて刊行された。母校である新宮高校には，彼が好きだった言葉「われら地球人」と記された記念碑が建立されている。また，世界的な業績を記念して，月のクレーターの一つに「ハタナカ」の名が付けられている。

インターネットWikipedia・「和歌山県ホームページ」